

いよいよ、3年間の集大成となる部活動が終わろうとしています。私は入学当時、体を動かしたくてハンドボール部に入りました。しかし、その考えが甘かったことがすぐにわかりました。朝練は当たり前、来る日も来る日も地味なトレーニング。試合をしても負けばかり。ただきついと思うだけで、ただ、何となくやっていました。

そして、最初の市の中体連。1年生だけのチーム。緊張と不安で足が震えたことを覚えています。結果は3対1の完敗。何となくやっていた部活動だったから、その時は、大敗した恥ずかしさが先でした。しかし、そこからわき上がってきたのは、「なぜ、もっとちゃんと練習しなかったのか？ なぜ、何となく過ごしていたのか。もっとちゃんとやっていたら・・・。ハンドがうまくなりたい。」

それから、純粋に練習に打ち込み始めました。しかし、自分の殻を破ることは、なかなかできませんでした。

ある日、先生から「声を出せ」と叱られたことがあります。でも、やっぱり試合になってコートに立つと、自分の指示に自信が持てず、間違いを恐れて、なかなか声を出すことができませんでした。

試合のたびに、そのことで叱られて、試合をしたくない。もうハンドをやめたい。たくさんの逃げ道を自分の中で探していました。しかし、逃げ道を探せば探すほど、先生から言われていることの正しさ、自分の間違いが明確となり、皆の足を引っ張っている自分のふがいなさで、ますますみじめな気持ちになりました。

くやしい、何とかしたい。他のチームのキーパーの声かけの仕方を研究し、皆の負担が減るように声を出すことが、少しずつできるようになりました。そうすると、どんどんハンドが楽しくなり、皆でできることが、私の一番の楽しみになりました。

しかし、私はもう一度ハンドをやめたいと思ったことがあります。それは、今年5月、山口での合宿でのことです。その時も、なかなかシュートを止められず、叱られるのが怖くて、皆に声をかける勇気もなく、手足がぶるぶる震えて試合の時間が早く終わることだけを考えていました。みんなは、やさしく声をかけてくれました。「もっとディフェンスがんばるけん、あとはよろしく。」と・・・。

今までの私は、すべて自分のことしか考えていなかったのです。自分の力不足や自信のなさ。そして、一番の敵は自分自身だと言うことに気がつきました。失敗したくない。ミスしたくない。それは、叱られたくない。カッコ悪いところを見せたくない。自信がなくなると、自分のことしか考えない弱い自分がいつも心に表れます。

それでも、そんな私をチームの仲間が支えてくれました。気持ちが落ち込んだ時に、いつも声をかけてくれました。

その時に初めて、本当の仲間のありがたさに気づくことができました。

今でも私は不安です。明日の試合も不安でたまりません。しかし、それは叱られるのが嫌なのではなく、皆の力になれないかもしれないことが怖いのです。

私が今、ハンドボールが心の底から好きなのだということ。仲間のために頑張りたいと思えること。そして、弱い自分、自己中心的な自分という殻をやぶれそうになっているの

は、西浦先生のおかげです。先生に出会わなければ、ハンドを教わっていなかったら、一生懸命にする自分の姿と、どんなにきつくても、友だちと乗り越えた時の喜びを共感する楽しさを知ることはなかったと思います。

いよいよ明日は、県の中体連です。初戦の五和中学校に勝ったら、きっと山鹿中学校と対戦します。市の中体連では、山中に勝つことができずに、先生に恩返しできませんでした。必ず今度こそ、山鹿中学校に勝ち、決勝まで進み、私たちが先生と出会えてよかったと思えたように、先生にも、私たちにハンドを教えてよかったと思ってもらいたい。ささやかな目標ですが、これが、3年間の集大成となる私の最後の目標です。